

ふるさとわがまちづくり

東広瀬上切自治区

◆「東広瀬」の歴史

山々の深い緑、静けさの中にせみしぐれがひととき高く響きわたります。東広瀬上切自治区は、矢作川と山々に囲まれた静かな土地で、隣りの東広瀬下切自治区の広瀬城とともに児島高德が建立したと言われる広済寺があることで知られます。

児島高德は、南朝の武士の霊を祀るため広済寺を建立したと言われ、裏山の木立の中には墓所も残っています。この地は、猿投神社、鳳来寺、秋葉神社（静岡県）を結ぶ要地で修験者（山伏）の往来が多くあったといわれます。

鎌倉時代には、修験者達が修行する修験道場が作られ、これが広済寺の前身になったといわれています。

区内に残る法華墓所、法印屋敷、極楽など仏教ゆかりの地名や、山伏を葬った富士墳があることから、この自治区の歴史の古さがうかがえます。

江戸時代は、天領の地で赤坂代官所の支配を受けていました。広瀬城の城下町として栄えた東広瀬。下切は武家屋敷。そして、上切は宿場町、門前町の形態を示していたということですが、今に残るものは、広済寺と代々の城主の墓だけになっています。

また、昭和49年から造成が始まった東広瀬団地の完成は、当時の自治区の人口、戸数を一挙に増加させるとともに若い人々で、活気づき、新しい自治区運営がスタートしました。

◆区民会館建設と自治区法人化の道のり

平成16年10月東広瀬上切内の秋葉神社拝殿完成を機に、老朽化している東広瀬上切公会堂の建替え機運が高まり、若者を中心とし、



「公会堂を壊し、新築する案」が浮上しました。その後も、夜遅くまでいろいろな案が浮上しては消えてゆきました。

そのような時に、当自治区出身の（株）アイホンの会長の市川利夫さんから土地の提供話があり、公会堂建設の計画は一気に進みました。

しかし、譲り受ける土地の名義はどうするか？という問題が発生しました。豊田市役所で相談したところ、「地縁団体」の認可を受けたらとの助言を頂き、さっそく手続きに入りました。平成16年11月末臨時総会において、規約の改正、地縁団体認可申請など議決後、平成16年12月豊田市に、地縁団体の申請。平成17年1月地縁団体の認可を受けることが出来ました。認可後、すぐに土地の譲り受け、それと時を同じくして、区民会館の建設申請を行い、平成17年12月に区民会館が完成いたしました。

多くの方々の協力により無事二つのことが出来ました。そして現在、区民会館は、区民はもとより近隣の多くの方々の憩いの場になっています。



広済寺

◆自治区の課題

高齢少子化が進む自治区ですが、幸いにも若者のわが町に対する愛着心が旺盛で、自治区運営についても非常に協力的です。

この若者の気持ちにこたえるためにも、この人たちの子どもさんたちが安心して高校に通えるような公共交通機関をはじめ、潤いのあるまちづくりが今われわれに求められている大きな課題だと感じています。

◆まちづくり活動への期待

旧町と団地の住民の「交流」があるようでない部分があります。郷土への認識の違い、団地の人たちには、「私の生まれた町では、こうでなかった」という、現実の上切自治区との違いがあるように思います。

しかし、ある程度の時間も過ぎた今、終の住処としてこの地を選ぶ以外に策はないのではないかと思います。ならば、共に、ねぎらいの気持ちや感謝の心、思いやり、やさしさのある街になるよう互いに利他の心で日々暮らしてゆきたいものだと思います。

その心の発露としてあたたかいまちが、おいおい出来てくるのではないのでしょうか。夢かもしれません。夢があるから、思いがあるから出来ることが沢山あるような気がします。忘れないでください、やさしさを。

東広瀬上切自治区データ (H20.4現在)

設立：昭和52年
世帯数：168世帯
：154世帯（昭和52年）
組数：13組
面積：1.049K㎡
自治区たより：「広報かみぎり」
回覧：月2回
ちびっ子広場：3箇所
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：33箇所
小学校：東広瀬小学校区
自治区会館：東広瀬上切自治区区民会館